

園だより 6月

我が子よ、父の諭しに聞き従え。母の教えをおろそかにするな。

箴言 1章 8節

子どもたちを守るかの様に新緑が生い茂った園庭の木々のもと、5月の園生活の日々が過ごされました。感謝でした。昨年度は行えなかった親子遠足、今年度は保護者の皆様のご協力により、感染症対策を講じながら、短いひとときではありましたが天候にも恵まれお家の方とファンタジーの世界感を共に感じ過ごす体験のときとなりましたこと、本当に嬉しく思いました。今年度も子どもたちは沢山のファンタジーの世界を楽しんで過ごし、豊かな感性を育ててまいります。

幼稚園での安定した生活の流れの中、それぞれのペースで様々なことを感じ自ら動き出し(年少組の子どもたちにとっては「動き始め」でしょうか)過ごす毎日。そこに絵本・童話の世界がエッセンスとして織りなされ、子どもたちは個々の感性でそれを受け止め、友だち・保育者と共鳴し合い共感し合うことで感性が豊かに育まれます。そして、親子遠足という日常と少し視点を変えた体験によって、さらに深く子どもたちにその世界観が刻み込まれます。今年度は園生活の日常も含めて「大切なとき」が与えられ守られた恵みの5月でありました。

様々な5月の風を受け止めながら穏やかに過ごした子どもたち。園庭で遊ぶ元気な年少さん。砂や水が大好き。ぱっと散る砂や飛び散る水しぶきの様子に満面の笑み！周りの反応にも面白さを感じています。けれども周りにとっては・・・突然砂が降ってきたり、水しぶきが飛んできたり！迷惑な話です。「この子が～」と保育者に訴える子、「何するんだよ！」と怒る子、当然の反応です。保育者たちはその都度、周囲の子どもたちの嫌だった気持ちを受け止めながら、楽し気な年少さんには砂や水をかけられることはとっても嫌なこと！を繰り返し伝え、遊びの興味が広がる環境を整えます。それでも続く年少さんの砂と水。「だって、楽しいんだもん！面白いんだもん！」心の声です。けれども、ひと月もたつと少しずつ年中長さんの様子が変わってきました。訴えていた、怒っていた子どもたちが「いやだから止めて！」と本人に伝えます。被害(かけられた子どもたちにとっては・・・)に合わない様に色々考え工夫し遊びます。「迷惑だけど今はね」と年少さんの新年度故の行動を受け止めての姿です。少しずつですが年少さんの姿にも変化が見られています。受け入れ合う子どもたちの世界。ここに流れる子どもたちの心持ちを大切に6月の日々も過ごしたいと願います。保護者の皆様とご一緒に。宜しく願い申し上げます。

園長 駿河 幸子